

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり作成の報告がありました。

## 第 15 回 自治区制度等行財政改革推進特別委員会記録

日 時 平成 27 年 8 月 12 日 (水)  
14 時 50 分 ~ 16 時 10 分  
場 所 全 員 協 議 会 室

【委 員】牛尾博美委員長、田畑副委員長  
岡野委員、柳楽委員、串崎委員、森谷委員、上野委員、笹田委員、布施委員、  
芦谷委員、澁谷委員、西村委員、牛尾昭委員

【議 長】原田議長

【委員外議員】

【執行部】近重副市長、石本教育長、植田総務部長、砂川地域政策部長、埴財務部長、川  
崎健康福祉部長、宮崎市民生活部長、中村産業経済部長、下垣都市建設部長、山本教育  
部長、河上消防長、山本上下水道部長、大島浜田地区広域行政組合事務局長、吉永金城  
支所長、田村旭支所長、細川弥栄支所長、斎藤三隅支所長、湯淺市長公室長、前木総務  
部次長(総務課長)、河野財務部次長(財政課長)、古森人事課長、坂田行財政改革推進  
課長

【事務局】三浦局長、鎌原書記

議 題掲載

(報告事項)

- 1 浜田市行財政改革実施計画 平成 26 年度報告・平成 27 年度計画について
  
- 2 浜田市行財政改革大綱の策定について
  
- 3 その他

## 【会議録】

(開 議 14 時 50 分)

牛尾博美委員長

第 15 回自治区制度等行財政改革推進特別委員会、ただいま出席委員は 13 名で定足数に達していますので、早速会議に入りたいと思います。

本日はレジュメのとおり、執行部から行財政改革実施計画の平成 26 年度報告、並びに平成 27 年度計画、浜田市行財政改革大綱策定についての報告を受けたいと思います。

### 1. 浜田市行財政改革実施計画 平成 26 年度報告・平成 27 年度計画について

牛尾博美委員長

執行部からの報告事項です。説明をお願いします。行財政改革推進課長。

行財政改革推進課長

説明の前に今日の資料を確認させていただきます。お手元にあるようにまず本日のレジュメと、資料 1 が A 4 版の裏表のものです。浜田市行財政改革実施計画平成 26 年度報告・平成 27 年度計画について、というものと、それから冊子になっています資料 2、浜田市行財政改革実施計画。資料 3 は A 3 版二つ折りになっているものですが、浜田市行財政改革大綱の策定について。資料 4 も冊子で、浜田市行財政改革大綱素案平成 28 年度から平成 33 年度とあるもの。最後に資料 5、これも冊子ですが浜田市行財政改革大綱、これは平成 23 年度から平成 27 年というものがお手元にあるかと思ひます。よろしいですか。

牛尾博美委員長

皆さんお手元にありますか。  
( 「はい」という声あり )

行財政改革推進課長

よろしいですか。では先ほど委員長からありました、まず報告事項の 1 点目からご説明させていただきます。  
( 以下、資料をもとに説明 )

牛尾博美委員長

説明が終わりました。この件で委員から質疑はありませんか。

牛尾昭委員

最初に 131 番「学校給食施設の統合」についてお伺いします。産業建設委員会で 7 月に藤沢市を訪問しました。藤沢は各校区で地産地消を推進するために、敢えて統合エリアを小さくしている。浜田で言えば統合せず、今ある施設を残すのに近いと思ひます。統合しないメリットは、各エリアに合わせたメニューが作れる。その地域の物を購入できる。目に見える生産者から納品してもらって、その日の物を子どもに提供出来るメリットがあるそうです。

統合すれば統合のメリットがあるわけだから、僕も統合せざるを得ないと思ひていましたが、藤沢方式もありなんだなど。ここらで再度、農家所得を上げるためにも統合については考えた方が良くないか。スケールメリットだけで追いかける時代は終わったんじゃないかという気が、藤沢へ行ってし始めました。7 人で行った内、私だけ思ふのかもしれないかもしれませんがそういう印象を持ちました。

もう1点、624番「ゆうひパークみすみ」について。先日の所管委員会の報告で、少し頑張っただけではあるが数字が伸びたと。特に仕出し等が伸びたと。仕出し売上がレストラン全体の売上の4分の1に迫るくらいだという報告がありました。良いことだと思ってたんですが、三隅町内を歩いていると業者さんから「最近困ったことがある。議会がゆうひパークの数字が悪いと責めるので、事あるごとにゆうひパークから物を取らないといけないではないかという号令が暗にかかっている、うちの商売あがったりだ」という声がありました。率直に言いますが、ある経営者さんは「そんなことは良いんですかね、議会がうるさいから」と言われたので何となく断りを入れたんですが。それが全て当てはまっているとは思いますが、非常に難しい問題だと思います。今言ったようにレストランの売上の4分の1を仕出しが占める状況が出てくると、他の施設を圧迫しているんだろうと思います。どちらも一方は市が筆頭株主、もう一方は善良な納税者です。だから議会がいくらうるさいことを言うからと言っても、その辺は配慮されないと。相当強い口調で言われたので話だけ伺って帰ってきましたが。キャパが決まっているので片方に手を入れると、もう片方が凹みます。それは注意しなければいけない。狭いエリアでは誰かが浮き上がると誰かが沈むという現象があるので、それについてはご検討されるべきではないかと思いました。印象です。

教育部長

14ページの学校給食施設の統合について、スケールメリットだけで考えるのはどうかというご意見でした。今の所書いてあるとおりの1センター化、2センター化、5センター化という案を内部でも検討中で、27年度中に総合的に市としての方針を出すことにしていますが、仰ったように地産地消や食育、食物アレルギーや配送について色々検討しますが、仰ったように統合しないということであれば色々な面でメリットがあるかと思いますが。しかし、1センター化にするとその逆で、経費面では効果があるがそういった面ではやや、地域に根差した地産地消にはどうかということも考えられます。色々な所から考えて、本年度答申を出すことにしています。ご指摘のとおりだと思うので、その部分も検討しながら方向を決めていくべきだろうなど、担当として思っています。

三隅支所長

ゆうひパークみすみのことですが、号令がかかっているという話は私は耳にしていますが、そのように感じている方がいらっしゃるなら、それが民業圧迫になってはいけませんので、他の業種さんも同様に利用をしっかりといただくようなことを、住民の皆さんにも私どもとしてもお願いしていかないといけないと思っています。三隅支所内では毎週水曜はゆうひパークからお弁当を取ることになっていて、可能な限りそういうご協力もしながら売上増に繋がるよう取り組んでいます。牛尾昭委員のご指摘をしっかりと受け止め、

牛尾昭委員

配慮を充分にしていきたいと思います。

教育部長、今年7月に藤沢市に行く前は統合のメリットが優先するんだろうと聞いていたんですが、藤沢に行って色々な話を聞く中で、実は藤沢の行政視察の前に突然1人若い職員が出てこられて自己紹介しました。浜田高校の卒業生でした。最初に「布施さんこんにちは」って言うんですよ。向こうの藤沢市の配慮で、浜田高校のOBですということで、私の娘の同級生だったんですけど、何だこんな所にいるのかと。向こうの配慮で質疑応答の冒頭に挨拶したということで、こういう人材がここにいるんだということで、藤沢市のある種の姿勢を感じたんですが。藤沢は農業が盛んなんです、東京近郊ですから。農家所得が300万円から2,000万円を超える。だから農家の跡取りは農業をするのが当たり前、そういう土地柄なんです。だから僕らもそれを前提に話を聞いて、農業生産高も高いので学校で買ってくれないと困るとというのが意識的にあったということで、そういう意味で言えばセンター化すると同じ規格のものを全部合わせるの難しいけど、何校かでやるとロットが少ないから合わせやすい。ロットが少ないから高くなるということもあるんでしょうけど、その辺は何か調整するんだと聞いたので、理想的なのかなとも思ったんです。だから、私も今までずっとセンター方式で纏めてやるのが、コストコストと思ってましたが読み込んでみると、正規職員も完全嘱託化したとのことで、一方で正規職員はそこに組み込んでないということは、一つは達成したわけだから、どちらに決定されるにしてももう少し柔軟な……僕が言うとおかしいですが、コストだけではない、先ほど部長が言われたことも踏まえてもらって是非、結果がどうのこうの言いませんけど是非ご検討いただきたいなど。行って僕も考え方を変えましたので、そういうこともあるんだなと思ってますので、どうぞよろしくお願いします。

牛尾博美委員長  
芦谷委員

他に。芦谷委員。

資料の4、5ページあたり。このことが自治基本条例の制定も次の地区まちづくり委員会設立もBなんですよね。これらの要因、原因、理由について、改めて考え方を伺います。今Bなので今後どうするか併せてお願いします。

二点目、例えばまちづくり推進委員会があるんですが、これの項目そのものが行革の項目に相応しいのかという気がします。例えば類似のもので自主防災組織の組織率。このようなものと比べると、ここに推進委員会の組織というのが行革とどう関係するのかという気がしますので、挙げる項目の考え方を伺います。

地域政策部長

111番の自治基本条例とその次のまちづくりの関係がBということでご質問いただきました。まちづくりの皆さんの気運が醸成し、それをもとに自治基本条例を作るという考えでおりまして、先に条例を作るという考えではないことからこのような流れになってい

るわけですが、その考えからいくとまずは6月議会でもお答えしご理解いただいた、この4年半ぐらいの間とにかくまちづくりの皆さんの意識の高揚、組織化を高めるということで取り組みを進めていきたいということで、特に浜田自治区の組織化をこれから進めていく。そのためのキーワードとして防災とか色々、地域の皆さんにご理解いただけるテーマを今洗い出して、それとエリアも見直そうと考えています。公民館単位や小学校区というのが一つの基本になっていますが、浜田自治区においてはこれが広い範囲になって人口も多いので、エリアを見直したりまちづくり総合交付金の基準等も見直し作業をしています。そういう取り組みの中でもう少し踏み込んだことをやっていきたい。一方ではまちづくりフォーラム等で取り組むノウハウが分からない部分もありますので、そういう取り組み事例を見ていただきながら、自分の地域が出来ることをやっていただき、そういう取り組みがいずれ自治基本条例に持っていけるのではないかとということで、考えて進めていきたいと思っています。

項目については現在の物が27年度までとなっているので、次期の行革、今後作る時の検討段階だと思えます。それについては所管から。

総務部長

現在の行革項目については、平成18年に国が定めた国の行革大綱に基づく項目、その時に抜本改革・集中改革プランというのが示されましたが、これに基づいて項目を決めています。その中に「市民との協働の推進」というのがあって、先ほどご指摘があったようなことも行革項目に入れてあります。次期項目の選定に当たっては、いわゆる本当の行革項目に馴染まない項目については、また落としていくことも検討しながら考えていきたいと思っています。

芦谷委員

要望ですが、行革を進める本当に具体的な項目と、それから施策推進とは項目を分けてもらって、分かりやすい方が良くと思いますので、意見だけです。

牛尾博美委員長

澁谷委員。

澁谷委員

個別の各項目ごとの年度別評価が入っているわけですが、コメントと言うか。全体としての年度評価というのが一枚紙でトータル的に分析されていないんですが。それはどのように考えればよろしいのか、まずお尋ねします。

総務部長

資料2の表紙裏の方、この中に全体項目の中でS評価とA評価を合わせると65パーセントとなっており、概ね計画どおりに全体では進捗しているものと認識しています。

澁谷委員

そういう評価ではなくて分析として、ここは評価できるほど進捗したけれど、この項目についてはより一段のものが要るとか、この項目については時代背景としてそぐわない状況になりつつあるとか、何か年度ごとのトータル的な分析が要ると思います。部長は言われたけど、A評価がこうこうだと。だったらこのA評価をとおし

て住民福祉はどのように向上したのか、浜田市はどのくらい発展したのか、お答えいただけますか。

総務部長

大変厳しいご指摘です。この行革効果が住民福祉にどれだけ直結したかは、なかなか私は申し上げる知識がないのですが、行革の効果をもとに色んな施策がされていると思うので、その施策の中で住民福祉の向上に繋がっている部分はあるかと思えます。ただ、前段でご指摘があった全体評価についてですが、今のこの計画は今年度をもって終了しますので、今年度終了時には総合的な総括は必要なんじゃないかと思えます。

澁谷委員

私は行革をやっていますが、行革のための行革では全く意味がないと思えます。行革の自己満足と言うか。今日は全員協議会で財務部長から、市民の生活の負担感が増えているという説明があったように、それは私どもが市民の皆さんから聞いている声と全く一緒なんです。至る所で苦情を聞きます。それは今話題になっているシングルペアレントの事業についてさえ、事業者の皆さんとかそこで働いている人からすると、今まで住民税を払った人間には何もしないで、何故外からの人にそんなことをするんだと。外から入れるより出ていく人間をさし収めるような、住民福祉の充実の方が先じゃないですかというお叱りを、皆さん行って聞いてくださいよ。福祉施設へ行ってそういうことをやっておられる方に。すごく叱られますよ。だからそういうことが無いように、行革を通して少しでも住民福祉を向上させていくことが無い限り、本当に成果があるという認識で良いんでしょうか。ちょっと私その辺が疑問なんです。だからそこは一步踏み込んでいかないといけないと思う。それは、ある程度数字的な評価で検証していかなくてはいけない問題もあるかもしれない。ABCだけじゃなくて目標の数値として分析していかないといけないかもしれないし。だから例年通りのことをやって評価を書いていって、今はAになりましたでは、もう時代の状況について行けないんじゃないですか。そのくらい都市間競争というか人口減少のスピード感が早いというか。生活の苦しさが厳しいというか。その辺のことは今後行革の中においても、充分検討いただきたいと思えます。

近重副市長

行革の推進についてはABC評価でやっていますが、この評価についてはそれぞれの項目について担当課がどういう形で進めて来たという実績ですので、これはこれでしっかりと受け入れないといけないと思っていますし、そういう認識もしっかりと各職員が持たないといけない部分もありますので、この評価はしないといけない。ただ数字でどうこうするという部分、次回の部分については検討させてもらわなければいけないと思っていますが、施策の色んな展開については、毎年市政方針の中で「こういう施策をしていきます」という形で示させていただいて、予算にも挙げていくわけですから、

牛尾博美委員長  
岡野委員

その中でしっかりご審議いただきたいと思います。行財政のことについても総合振興計画の中の裏には、そういった部分も行政運営をこのようにするんですという部分も含めて、総合振興計画の中には計画立てするので、その辺を含めては今後検討したいと思っています。

よろしいですか。岡野委員。

49 ページ。第3セクター等ということで。巻末に第3セクターへの新役員就任、当て職並びにOBが載っていますが、この第3セクター等の経営状況等の点検ということで、ざっと読んでみると、結局点検をして情報公開の状況を調査したということとか、情報公開を要請するとか。それは各団体が公開するという意味なのか、市が把握して何らかの形で市民に情報公開をしていっているということなのか、この文章では私は分からないんですが。具体的に言うと例えば、浜田市観光協会であるとか、浜田市教育文化振興事業団といった第3セクター企業の役員報酬がいくらなのか、市から誰が出向しているのかということは、市民の知る権利の一部だと思います。浜田市は全体を通してこういった情報公開が遅れているのではないかと。市議会議員でも実態把握があまりできてない状況で、市民にもなかなか説明出来ないんですが。こういった現状においてA評価にしているのが、単に自分が点検して「ああ分かった分かった」とやっているのではA評価にはならないんじゃないかと私は思います。その辺りの現状について説明していただけるだろうか。

行財政改革推進課長

先ほどの621番の件ですが、従来より最後の表によって情報提供した上で、最終的にはホームページにも掲載している情報ではあります。ただ経営状況の中身については議会報告をしているものもありますし、細かい部分となるとどこまでというのは少し差があるような気がします。今後の評価の公表の仕方については少し研究していきたいと思います。

岡野委員  
行財政改革推進課長  
岡野委員

これは役員報酬等をホームページで公開しているのでしょうか。

いえ、そこまではしてないと思います。

それと、観光協会を例にとりますと、今日の監査報告で報告書が出てないというようなことが書いてありました。そういう所の経営状況等を点検となっていますが、点検しただけで指導しないと結果的には同じことになるので、ここのA評価は私はクエスチョンだと思います。その辺りについてお願いします。

行財政改革推進課長

個別の分については、そういう部分もあろうかと思いますが、少し整理をした上で、仰るとおり指導という部分も含めて考えていきたいと思いますので、今後の検討課題とさせていただきます。よろしくお願いします。

牛尾博美委員長

よろしいですか。他に質問質疑ありませんか。ないようでしたら次へ移ります。

## 2. 浜田市行財政改革大綱の策定について

牛尾博美委員長  
行革推進課長  
牛尾博美委員長  
澁谷委員

議題2について説明をお願いします。行革推進課長。

(以下、資料をもとに説明)

説明が終わりました。委員の方質疑はありますか。澁谷委員。

内容的には大変素晴らしい内容だと思ったんですが、ただ、市長さんは元気な浜田を作るために、今はどちらかと言うと人を増やす時期なんだということを議会でも発言されて、その辺の整合性と物の考え方と、この内容とは180度違うように感じたのですが、整合性についてお尋ねします。

総務部長

委員さんが言われた以外にも総合振興計画を作っていて、片方でアクセルを踏みながら片方でブレーキを踏むような提案になるわけですが、今は確かに仰るように、市長は今投資する時期だと言っていて、その辺りは現在それぞれの事業について財政にサマーレビューとして提案しており、今から市長ヒアリングを受けた後、今年度の中期財政計画を作られる予定となっています。その辺りと整合性を図っていきたいと思います。

なお人員については、26年度の報告の中にも6月定例会で議員さんの一般質問でお答えしたように、現状の人員を上回ることは考えていませんが、定員適正化計画、平成29年4月1日に目途としていた数字を少し先延ばしさせていただきたいと考えています。これも含めて中財に提出しており、整合性を図っていきたいと思っています。

澁谷委員

あと一点だけ。浜田市の組織を非常に成果の上がるものにしていくためには、人事評価制度にチャレンジしてそれなりに評価していかないと、低いレベルというか、崩壊したソ連になると思う。その辺のことが一行もないというのが、長所を伸ばす所を感じられないんですが、見解をお尋ねします。

総務部長

スリムな行政の構築の所で、効率的な職員の配置や組織を構築しますというような、大きな括りで表現しています。今言われた人事評価制度については、これも議会の一般質問でお答えさせていただきましたが、28年4月からは評価するようにと人事院勧告の方で国も言っているので、浜田市としても来年4月からは人事評価制度の本格実施、今は人材育成という方向で試行的に実施していますが、来年4月からは処遇反映を含めた本格実施を導入していきたいと考えています。計画の中に盛り込むことについては、今から実施計画を作っていきますので、その中で検討していきたいと思います。

牛尾博美委員長  
森谷委員

よろしいですか、はい。森谷委員。

先ほど数値目標をどうのこうのと言われましたね。その数値目標というのは先ほどの総合振興計画を私が、1,000に対する割合でも何億でも良いから金額を書いた方が良いんじゃないのと言いまし



行革推進課長

たが、それと一致するような考え方なんでしょうか。

先ほどの会議で議員さんが発言されたのは、私は聞いていなかったのですが、先ほども言いましたように大綱というのは「こういう形で進めていきます」という理念と言うか方向性です。これに基づいて実施計画というのを作っていきますが、その実施計画においては出来るだけ……多分総合振興計画の方でも数値を挙げていたと思いますが、箇所数だとかそういったものは挙げてなかったでしょうか。具体的には目標をこういう数値、例えばそれが金額なのか箇所数なのか分かりませんが、あるものをあげてそれが達成出来るか出来ないという形の進捗完了していきたいと考えています。

森谷委員

そういう意味なら、予算の意味ですね私が言っているのは。予算を金額でやるか、全体の中の割合でやるか。どこまで細かく出来るかは別として、部単位や課単位、出来る所まで適当にやれば良いと思います。適当で良いと思うんですよ。出来る限り正確に適当。というのは、中期財政計画だって 27 年度というのはちょっと前のを見たら 340 億と出ているわけです。今 400 億でしょう。マイナス 60 でやっているわけです。これだって 11 億ですがどこまで……60 億もブレがあるのだから、11 億なんてどっちにブレるか分からないけれども、書かなきゃいけないから書いているような所がありますよね、絶対。書かない訳にいかないから。そういう所で、数字は大切だと思います。その所と、また、投資の時期だと先ほども言われましたが、今は分からないから投資の時期じゃないんですね。経営ではコンサル担当は皆言うでしょうが、売上つまり税収ですね、その効果は自分の意思では決められません。しかし支出は自分の意思で決められます。どこから手を付けるかは支出から手をつけるわけです。これは常識です。市長もこの前自信満々で言われましたが、U F J を企画誘致からやったと。あれは西田さんも言われましたが途中で失敗しているわけですね、今は別の人が成功した。大江戸とかパレットにも関わったと市長は言われましたが、これ人口のことを考えないで関わっている、どう言うか、経済音痴という感じなんですよ。人口が多い所で関わった。人口が多い所だったら何をやってちょっと上手くいけば大成功するんだと澁谷さんも仰った。人口について重きを置かないで、関わった関わらないとか、成功したとか言うようだったら、投資をするという時期の判断は間違っていると思うんですよ。皆さん方は国で言えば官僚なんですから、官僚が賢いわけですよ。総理大臣に対して色々な意見を言うべきなんです。総理大臣に従うのが脳じゃないわけですから、もっと勉強して意見を言うだけの能力を身につけて、株式会社浜田市を有効に活用してください。経営して欲しいと思います。

総務部長

投資時期がどんなかという、これは市長の政策のこともあります

ので、今その辺のことも踏まえて先ほど言ったサマーレビューで当たっている事項について、今からヒアリングして決めていかれることとなりますので、その辺の所で何らかの判断がされるだろうと思っています。時期ではないことに対して、私の意見とすればなかなか申し上げることはできません。

それから数値目標については、仰るとおりだろうと思っています。今、実施計画を立てるにあたって各部署に玉の洗い出しをしていますので、その辺も参考にしながら。進捗管理がしやすい形で目標設定して、その中に出来る限り数値を上げていきたいという考えです。

森谷委員

お金を使うことにはすごく慎重になって欲しいです。いくら勉強が出来ても、犯罪者講師を雇ったこともあるし、一年半以上経ってもお魚センターさえもパッと目を見張るような効果が出てないんですから、皆さんたちもっと危機感を持ってアドバイスしてください。

牛尾博美委員長  
総務部長  
牛尾博美委員長  
芦谷委員

答弁いかがですか。総務部長。

意見としてお伺いしておきます。

よろしいですか、はい。その他。芦谷委員。

資料の5の1ページ。今までの計画の大綱があります。2つの柱と7つのテーマ。これをやってみられて、今度は今説明があった資料3の2ページ目、将来を見据えた行政サービスの再構築と持続可能な……。非常によく分かりやすいんですが、質問したいのは1番の1の1です。行政をスリム化して行って2の2で今度は市民にやってもらおうということが見えるんですよ。問題は2の2の方で、市民協働のまちづくりと言いつつも、なかなか実際今までの10年間を見ると実績が上がっていません。ここで言いたいのは例えば、福祉の分野でいくと社会福祉協議会といった所もあったりするので、是非行政と市民とがキャッチボールをするような組織ですね、例えば地域協議会のあり方だとか、行政連絡員、各種委員、世話役、こういったものというのが輻輳していて、文字通り縦割で、必ずしもそういった住民自治を進めるような体制に、地域ではなってないんですよ。質問したことあるんですが、例えばですよ、すこやか員というのがあるんですが、これは「あんたなっときんさいや、何もすることないから」というのがあるんですよ。従って言いたいのは住民にやってもらおうと思えば、行政から依頼する色々な世話役さん、各種委員さん、行政連絡員、もう少しメリハリをつけて体系化をして地域で連携出来る体制を作って欲しいと思います。

総務部長

今回の行革大綱にあります、この行革を進めていくためには委員が仰るように、市民の参画、市民協働によるまちづくりは避けて通れないと思っています。ご意見については関係部署とよく協議しながら、なるべく協働してもらえりような取り組みになるような形で、組織も検討したいと思っています。

芦谷委員  
牛尾博美委員長

よろしく申し上げます。

その他ございませんか。先ほど出て来た、平成 28 年から 33 年までの行革大綱を作るにあたって、9 月までにパブリックコメントをやるような、その辺のスケジュール的なものを言ってもらえますか。もう 1 回確認なんだけど。

行財政改革推進課長

先ほどの資料 3 の見開き右側、4. 策定スケジュールでご説明させていただきます。7 月から 12 月までの現段階の予定について載せています。今このタイミングというのが 8 月の二重丸がしてあります。自治区制度等行財政改革推進特別委員会の説明・意見集約ということで、色んなご意見をお聞かせいただいているところです。一方で先ほど申し上げたようにこの素案については、市民の皆さまによる附属機関である行財政改革推進委員会に諮問もしていますので、こちらでも色んなことを検討いただいています。こういったものを 9 月に集約させていただいた上で、またこの特別委員会でも修正案等をお諮りいただいて、10 月にパブリックコメントを考えています。最終的にこういったものを踏まえた上で 11 月に調整し、最終的に大綱を決定した上で 12 月に議会報告させていただこうと考えています。

牛尾博美委員長

良く分かりました。もう一つ、行革の推進、有識者や公募された市民は、この前の前なんだけど向こうのタイムラグがありすぎると、議会を無視するなという声が委員からあったので、その辺はタイトな形で早急に、この委員会の中に提示すべきことと、推進委員会は、1 週間も 10 日も開いてしまうとそういうのがバレバレみたいな形になって議会軽視じゃないかという話があったので、その辺は上手く、出来れば議会の方が早い方が良くと思いますが、その辺はしっかり考慮して進めていただきたいと思いますし、もう一つは、その委員会の中で話されたことを、少しこちらに教えて欲しい。ここで話したこともそうだが、向こうで公募されたあるいは有識者の方、民間の方の推進委員会で話されたことも、少しかいつまんでまた話していただくと、この委員会も盛り上がって色んな意見がまた出てくる気がしますので。その辺を配慮していただければと思います。

行財政改革推進課長

ご指摘いただいた所、考慮しなくちゃいけない所、充分検討しながら進めていきたいと思えます。承知いたしました。

牛尾博美委員長  
森谷委員

その他、各委員から。森谷委員。

24 日の市民の行革の中で、色んなことを YouTube でアップしろという話が出たと思いますが、それについてはどう活かされていますか。

行財政改革推進課長  
三浦局長

今の……。

森谷委員、その YouTube の関係は議会に対することなので、それについてはまた議会の方へ報告するとありますので、この場で執行部が答えることではございませんので、よろしく申し上げます。

牛尾博美委員長  
森谷委員

森谷委員。

テープを聞きましたけど、市民の人はそういう認識はしてなかったと思いますけど、分かりました。

牛尾博美委員長

はい、その他ございますか。

( 「なし」という声あり )

この件について質疑はありませんので、次へ移ります。

### 3. その他

牛尾博美委員長

その他、何かありますでしょうか。無いですか、委員から質問や要望はありませんか。

( 「なし」という声あり )

はい、委員の皆さん、執行部の皆さん何も無いようなので、執行部の皆さんには退席いただいて結構です。お疲れ様でした。委員の皆さんちょっと待ってください。視察についてのことがありますので。

《 執行部退席 》

鎌原書記

手短かにさせていただきたいと思います。来週 8 月 20 日(木)から 21 日までの行政視察について、簡単に説明させていただきたいと思います。皆さん予定の方は大丈夫ですよ。駄目ですか……岡野さんと牛尾さんが、ということですね。はい、その他は大丈夫ですね。

大変すみませんが、お配りしている資料ですが、一応 8 月 20 日(木)の 10 時に出発したいと思います。浜田市のマイクロバスを借りていますので、それで行く予定にしています。どうぞよろしくお願いします。取りあえず 9 時 50 分に、浜田市役所東分庁舎駐車場にお集まりいただければと思っています。自家用車を置かれる場合は書いてあるように、奥に置いていただければと思っています。

( 以下、引き続き資料をもとに説明 )

何かご質問等ございますか。森谷委員。

森谷委員

高速の事故がありましたよね。私は被害者に接触が出来たので色々意見を聞きましたら、まず連絡先を把握してなかったのが把握しろと。家族とか。それと血液型を把握しておいた方が良かったので、念のため参考情報としてお渡ししておきます。

鎌原書記

ありがとうございます。その他ございますでしょうか。

牛尾博美委員長

これはどれくらい先に出しておくのかな、個人的には。

鎌原書記

個人的には出さずに……。

牛尾博美委員長

大丈夫なの。

鎌原書記

一応宿泊費が全体で 1 万 5,000 円程旅費が出ます。宿泊費が今 8,000 円のホテルです。その残りを 7,000 円程預らせてもらって、昼食代と一応夜は意見交換会を予定させてもらいますが 5,000 円程

牛尾博美委員長

度ということで考えております。一応それで賄えるんじゃないかと思っておりますので。よろしく申し上げます。  
それでは閉会とします。ご苦勞様でした。

(閉 議 16 時 10 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条第 1 項の規定により委員会記録を作成する。

自治区制度等行財政改革推進特別委員会 委員長 牛尾 博美

⑩